

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01524

研究課題名(和文)ハイブリッドな平和構築論の新展開

研究課題名(英文)New Perspectives on Hybridity in Peacebuilding

研究代表者

西川 由紀子(Nishikawa, Yukiko)

同志社大学・グローバル・スタディーズ研究科・教授

研究者番号：70584936

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ハイブリッドな平和構築論を実証的に検証しようとする目的で実施した。本研究を通して、現地の非政府アクターが、土着の制度が、援助を受けた政府によってもたらされる新たな制度に融合する場合と、それに対して抵抗する場合がみられ、それらの背景にある要素のいくつかを特定することができた。既存理論の多くがアジア以外の事例によって行われていることから、アジアを対象にした本研究により、新たな知見がもたらされた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で明らかになった点は、既存理論の多くが、アジア以外の地域を対象にした研究を通して発展しているが、本研究で明らかにした点は、アジアの事例によるものであり、既存理論に一定の貢献がある。2つの事例を比較することにより、同様の大規模な援助を受けた歴史を共有していても、時期の違いと政治体制の変化によって、大きく状況が変わることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This study aims to empirically examine the theory of hybrid peacebuilding by investigating: 1) the formation of "dominance" among local communities and international actors in peacebuilding activities, and 2) the circumstances under which "resistance" occurs (or does not occur) in societies where dominance exists. It particularly seeks to validate peacebuilding theories developed outside of Asia through Asian cases and reevaluate existing theories from new perspectives.

Through this study, it was identified that non-governmental actors play a significant role in maintaining security and resolving regional issues. It was observed that indigenous institutions either integrate with the new institutions introduced by aided governments or resist them, uncovering several underlying factors behind these dynamics.

研究分野：国際政治

キーワード：制度 平和構築 ハイブリッド

## 1. 研究開始当初の背景

学術研究の一分野として取り上げられるようになった平和構築（平和構築論）は、1990年代以降に、国連活動やその他の紛争経験国および紛争の恐れがある脆弱国における経験から、実践に牽引される形で発展してきた。1990年代までに既に、ヨハン・ガルトゥン（Johan Galtung）（1976）やケネス・ボールドィング（Kenneth Boulding）（1978）らによって平和構築という言葉が提起されていた。しかし、こんにちのような実践にもとづく議論ではなく、理論的および哲学的に検討されたものであった。このような1990年代までの平和構築に関する議論を、平和構築に関する学術研究の第一期とすると、1990年代における実践から、平和構築が理論化された時期は、平和構築をめぐる学術研究の第二期と提起できる。

第二期には、国連事務総長報告『平和への課題（Agenda for Peace）』において平和構築が、平和維持、平和創造および紛争予防とともに一連の活動と提起され、平和維持活動と長期的な開発援助を繋ぐ支援領域とされ、国際援助機関が平和構築支援として、多様な取り組みを行った。このような平和構築の実践が研究され、安全保障部門改革や紛争後の制度構築などの理論化が進み、国内外でも平和構築の学術研究がさかんに行われるようになった（篠田 2003、大門 2007、水田 2012 など）。

第二期の平和構築の実践（国際的な平和構築支援）を学術的に分析し、自由主義的平和の価値に根差したリベラル・ピースビルディング（自由主義的平和構築）を批判的に検証したのが第三期の平和構築論である。ローランド・パリ（Roland Paris）（2004）やオリバー・リッチモンド（Oliver Richmond）（2011）は、1990年代に行われた国連を中心とする平和構築支援は、選挙の実施や経済的自由化の促進など、自由主義的価値にもとづく民主主義と市場経済の導入を前提としていたことを指摘し、それがむしろ紛争の再燃を助長したケースもあったと、平和構築支援を批判した。こうした批判的観点から、第三期の平和構築論では、リッチモンド（2011）やロジャー・マクギンティ（Roger MacGinty）（2011）らが、土着の制度や価値と、国際的な基準や制度を融合するハイブリッドな平和（hybrid peace）を自由主義的平和構築に代わるアプローチとして提起した。ハイブリッドな平和のアプローチは、地元社会のオーナーシップを向上するとともに、平和を持続的に達成することを可能にすると考えられ、これからの平和構築の展開において注目されている。

マクギンティやリッチモンドが提唱したハイブリッドな平和は、平和構築のパラダイムを変える可能性があるとは指摘されることもあるが、比較的新しい議論であるため、不明確な点も多い。そこで本研究が着目するのは、いかなる条件下において、ハイブリッド性（hybridity）が達成されるのかという点である。ハイブリッドな平和構築論に関する既存研究は、ハイブリッド性を達成する要件について検討していない。これを検討するにあたって、ハイブリッド性が達成されないケースでは、抵抗（resistance）が当該社会でどのように生じて作用しているのか、地元のエリートに対する抵抗だけでなく、国際的平和構築支援を実践するアクターに対する抵抗を含めて検討しなければならない。ハイブリッドな平和構築論は、これらの点を十分に解明していない。このことから、ハイブリッド性の達成を左右する要件を、アジアの事例を通して、「権力（power）」、「優越（dominance）」、「抵抗（resistance）」を着眼点とし、実証的に検討することは、今後の平和構築論の展開に寄与すると考え本研究を実施した。

## 2. 研究の目的

本研究は、ハイブリッドな平和構築論で十分解明されていない、土着の制度が、国際的な規範や基準と融合されるかどうかを左右すると考えられる要因を、事例研究（東ティモール、カンボジア、ミャンマー）を通して、できる限り特定することを目的とする。この目的を達成するために、当該社会における「パワー（power）」、「優越（dominance）」と「抵抗（resistance）」のダイナミズムを解明するものである。平和構築論において、ハイブリッドな平和は、自由主義的平和にかわるアプローチとして提起されているが、土着の制度や慣行と、国際機関などによってもたらされる制度や基準が、いかなる条件において融合される（されない）のかを明らかにする。

## 3. 研究の方法

本研究では、設定した問いに対し、3つの事例を使ってそれぞれの国に特有の状況と、全ての事例に共通する状況の側面を加味しながら、定性的に分析を行った。当初予定していた2か国から、1か国を追加し、地元社会における特徴、外部アクターの介入の程度、国際社会の注目度などの影響を受けながら、政策決定の側面についても検討することとした。それぞれの事

例では、研究者、政策立案者、政府関係者、シンクタンク、非政府組織の関係者に聞き取りを行い、既存研究の枠組みを用いて分析を行った。

#### 4. 研究成果

本研究は、ハイブリッドな平和構築論を実証的に検証しようとする目的で実施した。本研究を通して、現地の非政府アクターが、土着の制度が、援助を受けた政府によってもたらされる新たな制度に融合する場合と、それに対して抵抗する場合がみられ、それらの背景にある要素のいくつかを特定することができた。既存理論の多くがアジア以外の事例によって行われていることから、アジアを対象にした本研究により、新たな知見がもたらされた。

特に本研究で明らかになった点は、①既存理論の多くが、アジア以外の地域を対象にした研究を通して発展しているが、アジアの事例では土着社会による抵抗が歴史的な経緯を含め大きく異なること、それにより二重の統治を生み出し、それぞれのアクターが、その両者を利用して状況的な利益を得ている例がみられたこと、②2つの事例を比較することにより、同様の大規模な援助を受けた歴史を共有していても、時期の違いと政治体制の変化によって、大きく状況が変わることが明らかになった。

研究期間中、単著の図書（いずれも英語）2冊、図書の分担にて章を担当したもの2冊（いずれも英語）、単著論文6本を出版し、口頭発表（学会等、国内外）9回行った。本研究の成果は、引き続き、論文、図書、学会での報告を通して行う予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Yukiko NISHIKAWA	4. 巻 1
2. 論文標題 The Rohingya Crisis: Global Governance for Human Rights Protection	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Perspectives on Conflict-Transformation from Peace Activists Scholars Peacebuilders	6. 最初と最後の頁 20-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yukiko NISHIKAWA	4. 巻 1
2. 論文標題 What does human security inform us during the COVID-19 pandemic?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Hisae Nakanishi and Cohen Ada (eds) Cremation or Burial How to Make Epidemiological Public Good Religious Freedom Compatible in the Age of COVID	6. 最初と最後の頁 9-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yukiko NISHIKAWA	4. 巻 1
2. 論文標題 The Principle of presumption of innocence In law and practices in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sarah Biddulph, Yukiko Nishikawa, Nguyen Thi Que Anh, Vu Congress Giao, Bui Tien Dat (eds) The Presumption of Innocence	6. 最初と最後の頁 30-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yukiko NISHIKAWA	4. 巻 1
2. 論文標題 Japanese response to COVID-19: politics of emergency power, human rights and the rule of law	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Law on the State of Emergency	6. 最初と最後の頁 25-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yukiko Nishikawa	4. 巻 210
2. 論文標題 Governance and Economic Development in Post-Conflict Countries: What Do 30 Post-Conflict Countries Inform Us?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 GSID Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1 - 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yukiko Nishikawa	4. 巻 16 - 1
2. 論文標題 The reality of protecting the Rohingya: an inherent limitation of the Responsibility to Protect	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asian Security	6. 最初と最後の頁 90 - 106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/14799855.2018.1547709	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計9件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 Yukiko Nishikawa
2. 発表標題 R2P and the Role of Japan in Addressing the Myanmar Crisis
3. 学会等名 National Dialogue on R2P and Atrocities Prevention (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yukiko Nishikawa
2. 発表標題 Japan's perspective on current Myanmar crisis
3. 学会等名 Myanmar and Regional Security in Indo-Pacific (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西川由紀子
2. 発表標題 ロヒンギャの危機にみる人権をめぐる国際立憲主義の限界
3. 学会等名 グローバルガバナンス学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yukiko NISHIKAWA
2. 発表標題 The Principle of presumption of innocence In law and practices in Japan
3. 学会等名 Online expert conference on the presumption of innocence (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yukiko NISHIKAWA
2. 発表標題 Japanese response to COVID-19: politics of emergency power, human rights and the rule of law
3. 学会等名 Law on the state of emergency (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yukiko Nishikawa
2. 発表標題 Fundamental Challenges for Contemporary Global Constitutionalism
3. 学会等名 New thinking on global constitutionalism, Berlin Germany (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yukiko Nishikawa
2. 発表標題 Regional Security in Southeast Asia in the Era of Great Power Rivalr
3. 学会等名 Southeast Asia Research Network (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yukiko Nishikawa
2. 発表標題 Southeast Asia from the Peace and Conflict Lens
3. 学会等名 Association for Asian Studies (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yukiko Nishikawa
2. 発表標題 Politics of Buddhist Nationalism and Extremism in Myanmar
3. 学会等名 G20 Interfaith Forum Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 Yukiko Nishikawa (ed)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 216
3. 書名 Globalisation and Local Conflicts in Africa and Asia	

1. 著者名 Yukiko Nishikawa	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 200
3. 書名 International norms and local politics in Myanmar	

1. 著者名 Yukiko Nishikawa	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ASEAN University Network and SHAPE-SEA	5. 総ページ数 22
3. 書名 Peace and Conflict transformation in Southeast Asia	

1. 著者名 Yukiko Nishikawa	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 30
3. 書名 Pandemic, States and Societies in the Asia Pacific, 2020-2021: Responding to COVID	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------